

編 集 後 記

◇高木老人の昔話はとても面白かった。雁が降りてから七輪に炭火をおこし、火繩銃の弾丸を落かしかかる。まるで、お伽話に出てくる世界だ。しかし、考えてみると、高木さんの話からまだ七十年とはたつてはいない。この短い時の流れの中で、私達は何を失ない、何を得たのだろうか。

◇桜川は最近ずいぶんきれいになった。六月には土浦市役所が、七月には青少年赤十字団が、八月には県の土木事務所が主催して、土手の草刈りや河川敷の清掃が行なわれた。そして私たちの会でも、九月二十四日に土手のごみ拾いを予定している。毎日個人的にごみを拾ってくれる人々も幾人か現われ始めた。自然を守ろうという自覚が、除々に人々の間に浸透しつつあるようだ。しかし、その一方で、日本各地で大規模な環境破壊が着々と進行している。瀬戸内海や東京湾は、

まるで最終の宣告を受けた重症患者にも等しい程汚れてしまった。雪ヶ浦の汚染も年々ひどくなるばかりだ。

光化学スモッグは、東京から関東一円に広がり、土浦でも六号国道沿いに、スモッグの被害者が現れ始めている。

私達の環境を守る戦いは、人間に利己的欲望がある限り、永遠に続くのかもしれない。

「桜川」 第二号

発行日 昭和四十七年十月十日

発行所 土浦の自然を守る会

編集人 佐賀 純 一

連絡先 土浦の自然を守る会

事務所(土浦市小桜町)

TEL 0357

印刷所 大石 贍 写 堂
土浦市荒川沖町